特集第3回

高齢化率34%でも安心して暮らせるまち

永源寺の地域まるごとケアの担い手に聞く「つながり」の大切さ

目に見えるサービスと目に見えないつながりをうまく共有させている永源寺の地域まるごとケア

連載2回にわたる特集の中で、高齢者の生活を支えるためには、医療・看護・介護といった「目に見えるサービス」を提供する一方、ご近所の顔見知りが訪ねてきてくれることや、地域の行事に参加することなどで精神的な孤立を防ぐなど、「目に見えないつながり」が欠かせないということを永源寺診療所の花戸さんに伺ってきました。

言い換えれば「目に見えるサービス」とインフォーマルな「目に見えないつながり」をうまく共有しているのが永源寺の地域まるごとケアではないでしょうか。

特集の最終回は、花戸さんとともに永源寺をはじめ地域で活動するみなさんに今の活動のことや、想いなど様々なお話をお伺いしました。

退職を機に、地域への感謝を込めて奉仕

この方にお聞きしました！

九里 重義さん
高野町在住

65歳の退職をきっかけに、地域とのつながりを持ち始めた九里さん。自治会副会長を引き受けたことで、心境も大きく変わったといいます。

「ここを終の棲家とするなら、より楽しく生活しやすい環境にしたいと感じました。そこでまず一番は、病気になったときのことを考えました。診療所は？ホームドクターは？と色々と思いましたが、妻が看護師出身で民生委員も務めていることから、花戸さんともつながりを持てるようになりました。」

また、「チーム永源寺という専門職と情報を共有できる場があり、絆が密なご近所さんの存在を改めて心強く感じた」といいます。